

プロジェクトワーク 「コンサルティング研究」



選択授業「コンサルティング研究」

担当教諭 宮田 隼

プロジェクトワーク「コンサルティング研究」とは？

「コンサルティング研究」開講までの経緯

プロジェクトワークとは、私たちの学校で行われている、生徒の主体性を引き出しながら、生徒が興味・関心あるテーマに1年間をかけて取り組む体験型学習のことです。このプロジェクトワークは、毎週月曜日の7時間目に行われ、中学生と高校生が学年を超えて一緒に学ぶことで、助け合い、尊敬し合いながら成長していくことも重要視されています。このプロジェクトワークは、教員が毎年開講したい講座を設定することができるため、2023年度から私は「コンサルティング研究」という講座を開講しました。

「コンサルティング研究」という講座は、実は2021年度に実施された関西SDGsユースアクションコンテストの学生サポート機関の部にてグッドアクション賞を受賞した自身の授業「SDGsプログラム(以下に抜粋)」をより発展させたものになります。

SDGsのテーマを、中学校26期生(現在の高校1年生)は中学1年次の地理的分野から取り入れています。というのも、多くの公立・私立問わず多くの学校でこのSDGsについて考える時間が設けられているからです。そうして誕生した独自のカリキュラムが『SDGsプログラム』です。

叶うかどうかは別として、中学3年次のカナダ語学研修で海外の生徒さんとこのテーマを共有できることを視野に、グループワークを通してSDGsが掲げる17の目標を一つ一つ取り上げ、自分たちの力で解決する方法を考え、世界規模の事象を“他人事”ではなく“自分事”として捉えられるようになることを目的としています。大学入試の傾向が大幅に変わっていたり、高校生までしかコミュニケーション能力は育たないという研究データが出ていたりする今、「主体的・対話的で深い学び」を軸に「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」のすべてを育てていこうと考えております。

【2021年度 応募資料より抜粋】

中学1年次から様々な課題解決のためのテーマを与え、それに基づいたグループワークを実施しました。中学3年次には、小規模なものではありますが模擬国連も実施しています。こうした『SDGsプログラム』という独自のカリキュラムを実施していたことから、他の先生方から関西SDGsユースアクションコンテストを教えて頂き、生徒たちに声をかけて参加したのが本コンテストとの出逢いです。

2021年に学生サポート機関の部で、他の応募者の方々の発表内容を聞いて、自身のカリキュラムに欠けていることが分かりました。それが「外部との連携」です。多くの解決すべき問題が17の目標という形で設

定されていますが、そのどの目標を達成するにあたって必要となるのが周囲との協力でした。以前応募した『SDGs プログラム』は、その最重要な視点がかけていたことが今ならわかります。

そこで、持続的な取り組みが可能になるように約2年をかけて、様々なSDGsに関連するアイデアコンテストに参加させて頂きながら、繋がりをつくることに注力し、多くの企業の方と協力できる土壌をつくり「コンサルティング研究」開講の準備を行い、開講に至りました。

プロジェクトワーク「コンサルティング研究」の講座の軸は2つです。

①地域や社会の課題解決を提案

そもそも「コンサルティング」とは、クライアントの相談に乗り、クライアントの企業経営や戦略、課題などに対してアドバイスや解決策の提案をして企業を支援することを意味します。ここで指すクライアントとは、学校が位置する大東市という“地域”や“企業”、様々な問題を抱えている“社会全体”のことを指します。

この講座では、中学生・高校生の柔軟な考え方・アイデアを活用して、そうした地域や企業、社会等が抱える課題に取り組んでもらい、課題解決を図る実践的な講座です。例えば、地域に関しては、企業と協力して何かイベントを提案するとして、所属しているメンバーで企画書を考え、プレゼンテーションを実際にクライアントの前で行い、打ち合わせを重ね、実際に協賛者や主催者となってイベントを最後まで責任をもってやり遂げることになります。

②プレゼンコンテスト等への出場

もう一つの軸は、プレゼンコンテスト等への出場です。過去に学校として参加実績のあるコンテストはもちろん、これまでに参加実績のないコンテストにもすすんで出場していきます。その際、講座に参加している生徒の興味・関心にあわせて、プロジェクトチームをその都度立ち上げ、各チームが参加したいコンテストに向けて準備を行っていきます。

中学生・高校生として、どんな地域や地方に、もしくは日本や社会全体に自分たちのアイデアを提供し、より良い社会を築くことのできる「持続可能な人材」の第一歩を歩めるようにしています。また、コンテストを通じて様々な繋がりを自分たちで築いていくことで、さらなる可能性を発見することも目的としています。

この2つの軸をもったうえで、この講座においては様々な地域密着型のイベントに携わってきました。②に関しては、この講座の開講に向けて参加させて頂いた本コンテストにて、2022年度に『文房具革命』のアイデアで、ベストアイデア賞を受賞しています。また、本年度は地域で行われたDAITOフューチャープレゼンコ

ンテストにて、中学3年生のチームが最優秀賞を受賞しています。他にも様々なコンテストに参加しています。今回の自由資料では、この②ではなく①についての具体的な内容をご報告させていただきます。

「コンサルティング研究」が目指すもの

この講座が目指すものは、前述した『SDGs プログラム』と本質的には変わりません。しかしながら、2つの目標番号に意識を向けてうえで日々、講座を進めています。

(1)目標番号4「質の高い教育をみんなに」の達成

昨今、教育業界では様々な教育の変化が出てきています。その一つが「主体性」という言葉に現れていると思います。多くの知識を詰め込む教育ではなく、一つ一つのことにとどうやって取り組み、解決に至ったのかの経験を通して学ぶ、生きていくうえでの知識が求められているように思えます。大学受験で言えば「特色入試」と呼ばれる入試形式も登場しており、必ずしも知識がある人が優れている訳ではないことが主張されているように思えます。



そうした中で、本講座では各プロジェクトを通して SDGs が掲げる 17 の目標を直接または間接的に意識することで、自分たちの力で解決する方法を考え、世界規模の事象を“他人事”ではなく“自分事”として捉えられるようになることを目的としています。大学入試の傾向が大幅に変わっていたり、高校生までしかコミュニケーション能力は育たないという研究データが出ていたりする今、「主体的・対話的で深い学び」を軸に「学びに向かう力・人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」のすべてを育てていこうと考えた結果が、この講座の開講でした。

当初の『SDGs プログラム』では、本校が行っているカナダ研修で現地の学生との交流でそれを達成しようとしていましたが、該当学年がコロナ禍でカナダ研修が実施できず、その実現は不可能となりました。そこで、地域に視点を向けて、地域に密着した課題解決の方向性へとシフトしたのです。

(2)目標番号11「住み続けられるまちづくりを」への貢献

学校の所在地である大東市にまずは密着し、地域の課題を解決していくことに注力しています。意識していることは、SDGs が掲げているパートナーシップであり、生徒たちにも課題解決のためには様々な機関や人が協力しなければ課題解決には至らないことを実際に学んでもらっています。その中で、大東市を魅力ある街にするアイデアを日々、相談しながら提案しています。



プロジェクト紹介

ここからは、実際に取り組んだ具体的なプロジェクトを紹介いたします。

プロジェクト1：ACP プロジェクト

【生徒たちの作成した企画書から抜粋・一部改訂】

ACP とは「Art connect People」の略で、老若男女、言語を問わず誰もが楽しめる芸術を通じて地域活性化を目指す企画です。その手段が、地域(大東市)のさまざまな場所に作品を展示して地域(大東市)全体をアート展の会場にする、というものです。また、この企画は3つのフェーズで構成されています。

フェーズ1：魅力を発信する ※これから紹介するアート展“DAITO ART IMPACT”)

フェーズ2：つながりを深める（地域の高齢者と若者の交流）

フェーズ3：継続して開催する

この ACP プロジェクトは、全国の魅力度ランキングでも順位が著しく低く、なおかつ少子高齢化が進んでいる大阪府大東市のために何かできないか、という生徒の想いから誕生したものです。元々は、大東市で行われた「DAITO フューチャープレゼンコンテスト」に向けて提案したものではありましたが、残念ながら入賞には至らず、様々な企業の方々のサポートを受けて実現に至りました。

実は、このプロジェクトの企画の提案から実施までを行ったのが、2021 年度の関西 SDGs ユースアクションコンテストにて『「きょうかしよ」にジェンダーロゴを！』のアイデアで、JICA 関西ベスト・グローバルスト賞を受賞したチーム TASKM です。



【2023年5月20日開催 第1回 DAITO ART IMPACT】

上記の ACP プロジェクトの 1 つとして実施させて頂いたのが「DAITO ART IMPACT」です。学校の所在地である大阪府大東市にある morineki という施設の敷地内の公園エリアをお借りして、青空のもとでのアート展を開催しました。

生徒自身が協賛して下さる株式会社ノースオブジェクト様、株式会社コーミン様に対して、企画の意図などのプレゼンテーションを行ったうえでご理解頂き、質疑応答を経て、実施する運びとなりました。さらには、敷地内の公園エリアを利用するにあたって大東市とも連携し、開催いたしました。

【アート展のテーマ】

Impact² (インパクト・スクエア) ※大東市に「衝撃」と「影響」の 2 つのインパクトを与える

【アート展の目的】

「アーティストと鑑賞する人」「morineki と地域住民」「大東市と市外の人」の 3 つをつなぐことが目的。作品を世に出す機会が少ないアーティストと芸術鑑賞の機会が少ない人たちを繋ぎ、大東市との絆を強める役割を持つ morineki と、morineki をまだまだ知らない人たちを繋ぐ。そうした中で、アート展を開催することで大東市に足を運んで頂き、その中で地域の魅力を発信する。このことにより市外から来て頂いた方に興味を持って頂き、住みたいと思ってもらえるようにしたい。

三菱 UFJ 不動産販売の調べによれば「大阪府内の住み心地ランキング」で大東市は 33 市中 27 位となっている。しかしながら、観光名所をはじめ大東市の魅力は数多くあり、この結果は知名度が低いことが原因であると考えられる。

そこで、まずは大東市を訪れてもらうことを目的に、アート展を開催したい。アートを通じて「アートの街・大東市」という新たなイメージへの「衝撃」を与える。また、まだ世に知られていないアーティストを中心に、新たなアートの魅力を発信する。このアート展の最終目標は、まちの空き家などを画材などにし、大東市全体をアート展の会場にすることにある。その中で、アーティストの方々によるワークショップなどを行うことで、地域の人々の交流も生まれ、住みたい街、そして住み続けられる街にすることが目標である。このような後世への「影響」を残すことも大きな意義である。

アート展のテーマなどはもちろん、すべて生徒たちが提案し、会場のレイアウトなども、生徒たち自身のアイデアによって決定しました。アート展にて、作品を展示して頂くアーティストの方々にも Instagram を使用して、自分たちから声をかけて参加者を募りました。その結果、実際に現地で展示をしてくださったアーティストの方が3名、そして作品を提供してくださったアーティストの方が2名、計5名のアーティストの方々のご協力いただきました。

展示している作品に関しては、各アーティストにつき一人の生徒が担当としてつき、アーティストの方々と交流しながら、作品の魅力を改めて教えて頂き、時にはアーティストの方に代わって作品の説明をしている場面も多く見受けられました。

アート展当日は、約200名の来場者があり、どのご来場者の方も普段は見れないアート作品について興味・関心を寄せて頂くことができました。

このプロジェクトをきっかけにプロジェクトワーク「コンサルティング研究」は本格的な始動となりました。この「コンサルティング研究」という講座の中では「持続可能性」も意識しており、参加している生徒自身だけでなく、この講座に参加している下級生～上級生もしくは来年度以降に講座を受講する生徒たちにも、プロジェクトを継続的に行えるように、各プロジェクトが終了した段階で生徒たちと振り返りを行うことも大切にしています。つまり、この講座における各プロジェクトは

- ①提案およびクライアントへのプレゼン
 - ②企画・イベントの実施準備
 - ③企画・イベントの運営
 - ④次回に繋げるための振り返りの共有
- の4段階から構成されています。



【今回のイベントにおける良かった点】

- ①笑顔でイベントを終えることができた
チラシを見て来てくださった方や keito のパン屋さんと働いていらっしゃる方、チラシを配っているのを見て来てくださった方など、本当にたくさんの方が足を運んでくださったことが嬉しかった。ご来場して頂いた方、アーティストの方、スタッフ一同楽しむことができた。
- ②コミュニケーションを取ることができた
アーティストの方との会話を通して視野を広げることができた。また、チラシ配りや自分の担当ではない役割にも挑戦することで、積極的にイベントに参加できた。来場して頂いたお客様ともコミュニケーションがとることができ、来場してくださった方もアーティストの方から直接作品について聞いて楽しそうだった。

【今回のイベントにおける反省点・改善点】

- ①事前準備について
 - ・メンバーの中で、比重の偏りが大きく特定のメンバーに負担をかけすぎてしまった。
 - ・当日までのアーティストさんとのやりとりに関しては、DMの中で言っていることが一貫していなかったり、曖昧な返事になったりして、困惑させてしまうことが何度もあった。その中で、最終的には円満に解決できたが、アーティストの稲垣さんに物販ができないことを伝え忘れてしまっており、今回のイベントにおけるアクシデントとなってしまった。
- ②イベント時について
 - ・準備に手間取り、アーティストの方が到着する前に準備を終わらせることが出来なかった
 - ・共有不足で、今回のイベントの詳細をメンバー全員がきっちり把握できてなかった
 - ・morinekiの利点を活かしていなかった
 - ※例えば、テラスで食事しながらアートを眺めることもできたので次回、同じ場所ですのであれば配置を考える必要あり。特に玄さんの作品の配置は、アート展の入口ではあったものの風の影響で結局地面に並べることになり、効果的でなかった
 - ・強風のため作品が何度も倒れてしまった(外でのイベントでの配慮不足)
 - ・アーティストさんとばかり話してしまい、お客様とのコミュニケーションが疎かになってしまった
 - ・タブレット展示が何をしているのわかりにくく、岡田さんとくまびさんのスライドショーを見て下さる方が他のアーティストさんと比べると少なかった気がしたので、全体に来場者がいきわたる工夫が必要
 - ・企画者だけでなくスタッフ全員が作品を解説するための情報をあらかじめ収集しておくべきだった
- ③次回に向けて
 - ・事前にもっとアーティストさんと展示作品数や作風などについて決めるようにする
 - ・今回のように直前のキャンセルもおこることも想定して準備をする
 - ・次回以降は、ライブイベントなどのよりお客様が楽しめるイベントを取り入れたい
 - ・アーティストさんはもちろん、今後の情報発信のためにインスタのフォロワーを増やす工夫をしたい
 - それに付随して SNS の効果的な使い方を考える必要あり
 - ・時間帯によってムラがあったのでそこを改善する工夫が必要
 - ・当日の宣伝の方法をもっと固めておくべきだった
 - 駅は事前に許可とれば、もしかしたらチラシ配りできた可能性があった
 - ・今回はほとんど荷物置き場になっていたので本部の活用方法も考えたい

プロジェクト2：地域活性化イベントへ

アート展が無事に終了すると、各方面からお声がけ頂くようになりました。その中で実施した2つのイベントを紹介いたします。

● morineki 夏あそび

2023年7月22日・23日の2日間で実施されたイベントが、前述したアート展を行った施設 morineki で開催される「夏祭り」イベントです。このイベントは施設に本社を置く株式会社ノースイブジェクト様が実施しているもので、その中の一部として「水あそび」をテーマとしてイベントを企画立案してほしい、との依頼でした。以下、クライアントからのイベントコンセプトと、依頼内容です。

【イベントコンセプト】

暑い夏を楽しく過ごす工夫や、自然の大切さを知る暮らしの提案

- ★暑い夏を工夫して楽しく過ごす暮らしや手づくりのイベント
- ★暑い夏を工夫して楽しく過ごす暮らしや手づくりのイベント

【クライアントからの依頼】

「水と楽しむアクティビティ」の企画。市が管理している川を利用したイベントを企画してほしい。

このイベントの企画の確認や現地視察に関しては直接、生徒たちがクライアントを訪れ、施設を利用する客層や、具体的にどういった企画を希望するかなど具体的に確認し、イベントの構成を考えていきました。また、川を使用するイベント実施は過去になかったとのこと、学生のアイデアを通してクライアントとして前例をつくるというのも大きなミッションでした。

そうした中で出てきたのが「小学生以下のお子さんをお持ちの子育て世代」に楽しんでもらう企画でした。



生徒たちの間で議論になったのが「川」を使ったアクティビティをどうするか、でした。時期的に7月ということもあり、七夕祭りをしたあとではないか、という話があがり笹を使った「笹舟づくり」をして川でレースをしよう、という話になりました。しかしながら、笹が長期間保管できるものではなかったため、身の回りのものを代用して舟をつくる案があがりました。そうした中で「家でも自分たちでつくることができるように」という意見があがり、紙パックを使用した笹舟をつくることになりました。以下、生徒たちが完成させた企画書からの抜粋です。



【テーマ】

水遊びや工作を通して、夏の思い出を作ろう！！

【目的】

地域の方々、特に子どもたちとその親世代とモノづくりやみず遊びを通して身近な自然とのふれあいを感じ、地域の活性化を図るとともに、子どもたちがモノづくりの楽しさをおぼえることで、将来的な創造力や独自性を育む。また、morineki でのイベントを通して地域の方々にとって、morineki をより身近に感じて頂き、親子を中心に楽しく学べる場所にする。

今回は特に、みず遊びに用いる笹舟を廃棄されていく紙パックを再利用することでごみの処理によって環境に与える影響を減らしたり、誰もが参加できる形で持続可能なモノづくりを計画し実行できるようにすることで、SDGs の目標番号 12 番「つくる責任 つかう責任」を通して、11 番「住み続けるまちづくり」の実現につながることを視野に入れている。

【企画の流れ】

① 笹舟の作成

生徒たちが「紙パック」を予め持参し、当日川の近くで作製を行う。この際、生徒たちが子どもの作製を手助けして、オリジナリティのある舟をつくる。

② 川でレースを行う

川に 2 リットルペットボトルなどを障がい物として設置し、その障がい物などを避けて最後までたどり着くことができた子ども達に宝のありかが書かれたヒントをプレゼントする。

③ morineki 施設内で宝探し

駄菓子屋で売っている 10 円程度のお菓子を宝として、施設内に隠された宝を探してもらう。



「水遊び」の企画には2日間で、約130名のお子さんが参加して頂きました。主催者である株式会社ノースオブジェクトの方が、宣伝をしてくださったおかげで、お子さんの親御さんが「Instagramを見てきました！」とご参加いただけるケースも多かったようです。なお、Instagramには、生徒とクライアントとの最終打ち合わせの際に、生徒たちが行った川の清掃の様子も掲載して下さっていました。

当初、川を使うのは前例がなかったため困難だとされていたので、川を使わずにできる「水遊び」の代案まで考えていましたが、実際に川を使ったのは、裏側で中高生のアイデアに賛同し、それを実現するサポートをしてくださった外部の方々があったからだ、ということも生徒たちは認識することができました。以下、生徒の振り返りの抜粋です。

●良かった点

- ・保護者の方々やお子さんに沢山感謝された
- ・子どもたちや保護者の方も写真を撮って楽しんでくれた
- ・楽しくイベントに参加してもらえた

●改善点

- ・資材不足
- ・子供たちの人数が多い時、親御さんにもご協力いただいた時間があつた

様々な方の協力を得ながらも、ターゲットの方々を楽しませることができたようです。想定以上の参加数だったこともあり、周囲の人の協力を得た場面もありましたが、良い経験となっていました。

●DAITO オープンファクトリー CONTACT

2023年11月3日に行われたのが、大東市商工会議所からの協力依頼があった「オープンファクトリー」というイベントです。オープンファクトリーとは、工場見学やワークショップを通して、その地域を支える中小企業を活気づけるためのイベントです。地域の人々が見学者となり、新たなものに触れる楽しみを知るとともに、その企業や職業について小さな子どもが知るきっかけとなります。一方で、その企業で働く人たちのモチベーション向上へとつながるとともに、将来にわたってお互いに付加価値創出をすることも期待できます。以下、クライアントからの依頼内容です。

【大東市で行う意図】

①新たな産業観光の創出

モノづくり現場の体験は見学者の知的好奇心を刺激する新たな観光になる。

②トキ消費を実現する

「その時にしかできないこと」を来場者に提供する。見学者には、2度とできない体験を提供し、不特定多数の人と体験や感動を共有する瞬間を提供する。一方で、働く側には地域に貢献していることが実感できる体験となる。

【依頼内容】

各企業が当日に行うワークショップの内容を、企業担当者と決めてほしい

【担当企業と依頼内容】

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| ①株式会社アクセスライフ | …調剤薬局の役割などを子どもたちに理解してもらえるようにしたい |
| ②植田油脂株式会社 | …廃油のリサイクルを子どもたちに理解してもらえるようにしたい |
| ③株式会社京伸 | …テンセグリティ構造を子どもたちに楽しく理解してもらえるようにしたい |
| ④共栄化成株式会社 | …工場案内やワークショップを子ども向けに調整する |
| ⑤明星金属工業株式会社 | …工場の魅力を伝えるための見学ルートの提案 |

11月3日の当日までに、生徒たちは各担当企業に分かれて、複数回の打ち合わせを重ね、依頼内容に沿うアイデアを提供することに注力しました。11月3日は、私たちの学校の文化祭の日でもあるため、現地で参加することは1社を除いて、実現することはできませんでしたが、提供したアイデア・企画に関しては各企業の担当者様から喜びの声を寄せて頂くことができました。

以下、生徒が提供したアイデアの大枠です。

●株式会社アクセスライフ様

調剤薬局として「調剤の大切さや薬剤師の魅力」を伝えることが最重要課題。複数回の打ち合わせを経て、生徒たちがその魅力を伝えるために紙芝居を作成し提供する形となり、当日その紙芝居を使用して子ども達に説明して頂いた。

●植田油脂様株式会社様

廃油処理を行う企業であり、地域に廃油の回収ステーションなども設置している。環境に優しいことを実施している一方で、廃油の回収ステーションなども含め認知度が低いことが問題だった。そこで、イベント当日に企業を訪れた子ども達に対してクイズを出題する形で、理解してもらえるように心がけた。

●株式会社京伸様

テンセグリティ構造という技術を使用した製造業を展開しており、その構造を理解してもらうためのワークショップを実施。その中で、生徒は子ども達に「安全」を保障するために、実際に作業を行い、危ない箇所などをクライアントと確認した。また工場見学ルートなどにおいても危険な箇所を確認した。イベント当日は、ケガなく無事に終えることができた。

●共栄化成株式会社様

工場見学のパッケージはすでにできていたため、子ども達に伝わるように、生徒が言葉などを選びなおした。

●明星金属工業株式会社様

工場見学のルートと一緒に考えることが元々の依頼だったが、生徒たちが自発的に「当日の見学案内をさせてほしい」と申し出た結果、イベント当日にシフト制で工場案内を行った。参加者が書いてくださったアンケートにおいても、本校の生徒に対するコメントもあり、提案・企画は大成功におわった。

以上が生徒たちのアイデアです。主催である大東商工会議所の方や、サポートさせて頂いた企業の方々からも「次年度以降も是非」というお言葉を頂いたため、このイベントは継続的に実施することが可能になっています。

「コンサルティング研究」のこれから

私自身も、外部の企業の方々と連携を取りながら、地域のために何ができるのか、を考えることは初めてです。担当教諭として、様々な社会問題を生徒一人一人が他人事ではなく自分事として捉えられるように、様々な企業の依頼を引き受ける窓口として、生徒たちへと繋いでいます。

「コンサルティング研究」という講座の大きな目標として掲げている SDGs の目標番号は 4 番と 11 番ではありますが、各プロジェクトの中で目標番号はさらに付け加えられています。また、様々なプレゼンコンテンツにおいて、生徒の興味・関心によってプロジェクトチームを編成することで、地域だけでなく社会全体の問題について考え、取り組むことも可能にしています。また、大人数では生まれてしまう興味・関心のない生徒を生む状況を防ぐことができるため「誰ひとり取り残さない」という側面もカバーすることが可能になっています。「持続可能性」という側面而言えば、プロジェクトの 1 つ目として紹介したアート展企画も、来年度第 2 回を開催することが決定しました。このアート展を継続的に実施していくことで、地域のイメージを定着させることもできるとともに、校内の生徒たちにもその想いは受け継がれ、持続可能な地域貢献が可能になることでしょう。

2023 年度は講座開講 1 年目ということもあり、地域密着型の課題解決学習にとどまっていますが、次年度からは全国に書店を構える未来屋書店様との課題解決が決まっています。2024 年度は、全国規模の企業が抱える問題を解決しながらも、本年度と同様に地域の課題解決により尽力していければ、と考えています。